

大津純子の

音楽彩々

～花ごころ～

おおつじゅんこのおんがくさいさい



大津純子

Junko Ohtsu

ヴァイオリニスト

東京芸術大学、米国ジュリアード音楽院卒業後、NYを拠点に演奏活動開始。

ジュネス・ミュージカル・インターナショナル及び、カーネギー・ホール両者による招待にてニューヨーク・デビュー。セントルイス交響楽団、シモン・ボリバル・ヴェネズエラ国立オーケストラ他との共演、リサイタル・プログラム：〈The Artistry of Junko Ohtsu〉のパブリックTVネットワークによる全米30都市以上への放映、また、米国でのラジオ放送出演も数多い。ロックフェラー三世財団より2年間に亘り特別グラント受賞。

国際交流基金派遣にて、ロシア、チェコ、オーストラリアなど、欧州、アジア、中南米諸国にて公演し、絶賛される。『ヴァイオリンの詩』、『アメリカ』（1998年、“レコード芸術”誌「室内楽準推薦盤」に選出）、『Prelude to a Kiss』などCD5枚をリリース。近年は、執筆・講演などの分野にも活動の範囲を広げている。

2002年、自ら企画・プロデュースする『Good Old Days』室内楽シリーズ：アメリカの＜素敵な時代＞を立ち上げ、日本のクラシック音楽シーンの盲点であった“知られざるアメリカ”にスポットを当てた意欲的な好企画として、大きな注目を集める。

2004年、イラストレーター・和田誠、ジャズピアニスト・佐藤允彦と共に、ジャンルを超えて音楽を楽しもうという意図のもと、『Junko and the Night and the Music』シリーズを開始。3人の異なるバックグラウンドを生かしたユニークな企画は大好評を得ている。2005年12月より、『大津純子・心のコンサート』シリーズを年2回展開中。

2006年12月、青森市でのコンサート『大津純子の音楽彩々』では、津軽民謡の代表曲「津軽山唄」を、また、2008年5月、八戸市でのコンサート『大津純子の音楽彩々～花風・春風～』では「南部牛追唄」を加え、好評を得た。

そして今回、初の弘前コンサートでは、「十三の砂山」を披露する予定である。



岡田知子

Tomoko Okada

ピアニスト

東京芸術大学器楽科を卒業後、北西ドイツ音楽アカデミー・デトモルトに留学。

声楽の伴奏と器楽アンサンブルを学び、同校を首席で卒業。

1977年1月、ベルリン・メンデルスゾーン・コンクール：ピアノ・トリオ部門第1位入賞。

同年10月、ジュネーブ国際音楽コンクール：ピアノ・トリオ部門第2位（1位空席）及び

スイス特別賞受賞。現在、アンサンブル・ピアニストとして内外演奏家との共演、CD録音、

コンサート・プロデュースなど、多方面に活発な活動を続けている。